

VOL. 12
SEPTEMBER
2021

News Letter

宇都宮大学国際学部・国際学研究科
同窓会東南アジア支部

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は
同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。
東南アジアをこよなく愛する同窓生のネットワーク再構築を
目指し2017年9月よりニュースレターを発行しています。
このニュースレターが一人でも多くの同窓生に届きネットワーク
が広がっていくことを切に願っています。

CONTENTS

1. ご挨拶
2. お知らせ
3. 連載コラム ～タイの昨今(第12回)～
4. 同窓生リレーインタビュー
5. 連載コーナー▶トコロ変わればザ★談会(第5回)
▶狙え! インスタ映え!? (第8回) ▶ともに感じる東南アジア(第8回)

1. ごあいさつ

こんにちは! コロナワクチン接種の広がり、規制緩和された国々に羨望の眼差しを向けてしまう今日この頃。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。おかげさまでこの8月に同窓会東南アジア支部は創立4周年を迎えることができました。これも支部メンバーの皆さんのご協力あってこそだと感謝しています。今後も、置かれた状況の中でベストを尽くすことを忘れず、さらにネットワークを広げるべく活動をしていきたいと思っています。今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

(東南アジア支部事務局 大畑美優紀/タイ在住)

2. おしらせ

この6月に、支部メンバーの佐々木哲夫さんが「対インドネシア援助」を分担執筆された書籍がミネルヴァ書房より出版されました!!

日本の国際協力アジア編
～経済成長から「持続可能な社会」の実現へ～

編著者には現宇都宮大教授の重田康博先生や元宇都宮大学教授の藤田和子先生も名を連ねております。みなさんも巣ごもりのこの時期に、是非お手に取ってじっくりとご精読ください。

※次項「同窓生リレーインタビュー」にて佐々木さんが執筆への思いを語ってくださっていますのでお見逃しなく!

3. 連載コラム

～マンゴスチン騒動が農家の未来を変える?～



先日、我が家にタイ南部のバンガー県(ブーケット隣県)の果樹園から大量のマンゴスチンとランブータンが届きました。これ、夫がソーシャルネットワーク上のオンライン注文を利用してお取り寄せした産地直送品。7～8月が旬のマンゴスチン。今年は大豊作に恵まれ果樹園農家も出荷で忙しい時期となるはずでしたが、なんと出荷できずに収穫量だけが伸び続ける事態が発生。実は豊作にもかかわらず、今年はコロナの影響で輸出が滞り、国内市場においても感染拡大防止のため多くの市場が閉鎖されていることも相まって、買付けが激減。販路縮小と生産過剰が大幅な値崩れを発生させ多くの果樹園農家が窮地に立たされることになったのです。農家からの救済懇願に対し政府は、国内の郵便局との提携。4キロ100



バーツ送料込みキャンペーン

民間企業や一般市民に対してマンゴスチン購入促進PRを開始。ニュースでも大きく取り上げられ、郵便局との配送提携の他、「ワクチン接種したらマンゴスチン2キロ無料贈呈」「南部の空港で果物を購入したら飛行機への果物預け料無料」「ガソリン給油で1キロ無料贈呈」などなど、マンゴスチン消費大作戦が各地で展開されました。その効果あってか、8月中旬時点で2万トンのマンゴスチンが国内消費され、値崩れも一定の水準に戻ったとのこと一件落着。今回の一件で、タイの果樹園農家がいかに輸出や大口買い付けに依存してたかが浮き彫りになりましたが、一方でこの騒動により公私グループ問わず農家が積極的にソーシャル



ガソリンスタンドのマンゴスチン1キロ無料キャンペーン

タイの昨今: 第12回

ネットワークを利用した産地直送のオンライン販売を開始し、それが多くの市民に受け入れられたことは大きな収穫。現在は配送手配が間に合わないくらいの盛況ぶりのようです。コロナ禍の苦境下で生まれた新たな試みが、もしかしたら今後の農家経営に変化をもたらすニューノーマル時代の試金石になるかもしれませんね。ちなみに夫がお取り寄せしたマンゴスチン10キロは無事完食、ランブータン10キロは完食前に期限切れになり悔し涙の夫。次回のお取り寄せは計画的に...と心の中でつぶやく私でした。

(大畑)



街中の道端にはマスクや果物などの路上販売車が増加中

Profile

佐々木哲夫さん

Tetsuo
Sasaki

- 栃木県出身
- 国際社会学科 99年入学(5期生)
- 藤田/中村(祐)研究室

▶ 大学卒業から現在までの道のりは？

高校教員になろうと思ってはいたのですが、大学卒業年度である2002年度前後は、研究フィールドであったインドネシア政治が激動で、相次ぐ憲法改正や大統領交代など、目が離せない状況でありました。そこで、大学院で引き続きインドネシアの憲法と政治を研究しようと考えました。

大学院でも藤田和子先生にお世話になりました(ご迷惑をお掛けしました?)が、諸事情(!)により大学院在籍が1年延長となり、藤田先生の定年ご退官を受けて中村祐司先生の研究室にご厄介となりました。そんな中、高校の常勤講師のお誘いを受け、院3年目は修士論文を執筆しながらフルタイム勤務という状況でした。何とか大学院修了となったのですが、夏に受験した教員採用試験は見事に落ちていたので、修了後の4月からは非常勤講師として2校掛け持ち&夜は塾講師のアルバイトという生活を2年間続けました。

2008年によりやく正規採用の公民科教諭として赴任したのが、栃木県東部にある県立烏山高校でした。公民科採用でしたが、現場では地理歴史も担当しました。部活動も、1年目は運動経験が全くない私がサッカー部副顧問で悪戦苦闘していましたが、2年目からは専門の吹奏楽部顧問となりました。3年目からは吹奏楽コンクールにも指揮者として出場し、生徒たちのお陰で金賞受賞のみならず、栃木県代表として東関東大会にも出場することができました。



コンクール後の記念撮影は、笑顔ははじけます

初任校では異例の9年勤務でしたが、3回も卒業生を送り出すことができ、2017年に現在の足利高校へ異動となりました。現在は3年生の担任に加えて学習指導部長を仰せつかり、さらに栃木県吹奏楽連盟の理事として、東奔西走している毎日です。

▶ 高校教師としての理想と現実、やりがいなどを教えてください。

理想は、生徒全員が第一志望の大学に進学したり就職したりすることですね。高校は上級学校に進学するか就職するか、本当に人生の大きな節目であるので、生徒一人一人の生き方あり方の一助となればと思います。しかし現実としては、「妥協」せざるを得ないことがしばしばあります。また、日本の教職員は授業以外の業務も多く、事務作業に忙殺されることが多いです。ですが、卒業式の日に「先生、ありがとうございました」と言われたり、厳しい指導をしていた部活動の生徒に「お世話になりました」と言われると、それまでの苦勞が嘘のように消え去ります。また、小中学校と違い、高校は卒業して1~2年経つと酒を呑めるようになりますので(笑)、卒業生と酒席を囲むことも楽しいですね。



卒業式を終えての一コマ

▶ 休日の過ごし方は？

独身貴族を謳歌しているので、休日は趣味に充てたり家事をするのが専らですね。美味しいお酒と肴を求め、日本全国を巡ることもあります。日中は自然環境や史跡を見て回りますが、夜は別の意味で忙しいです。

また、ラグビー観戦はもはや人生の一部と言っても過言ではありません。旅行を兼ねて本当に日本全国を飛び回りました。さらに2019年のラグビーW杯日本大会では12試合を現地観戦しました。



日本vsスコットランドでは本当に泣きました(笑)

部活動指導の研究と趣味を兼ね、吹奏楽やクラシックのコンサートに行くこともあります。毎年5月には浜松で吹奏楽指導者クリニックが開かれ、全国の指導者や作曲家の方々と交流することも楽しいです。

ただ、コロナ禍で旅に出たり飲み歩いたりすることができないので、最近は料理することが増えましたね。

▶ 今回の出版物に対する思いは？

藤田先生からご依頼を頂いた時には、驚きと不安で「なんで私が?」という思いでした。博士課程に進学したわけでもなく、ましてや院修了後は高校の現場で奉職していましたので、インドネシア関係はテレビやインターネット、時には書籍を読みあさる程度でした。ですが、「神様は乗り越えられない試練を与えない」とも思っていますので、恥ずかしながらお引き受けした次第です。

幕張にあるアジア経済研究所図書館や市ヶ谷にあるJICA図書館に通うほか、インターネットで資料を収集しながら読み込み、分析するという、久々の研究活動を2~3年間続けました。そして数度に渡る校正を経て、ようやく上梓の運びとなりました。その間、藤田先生を始め、編者の先生方には大変なご迷惑をお掛けしました。

「本物の」研究者の方々からすれば大したことはないと思われるかもしれませんが、通常業務を終えた後に自宅で夜な夜な分析・執筆し続けたことは、また新たな経験をさせて頂いたと思います。出来上がった書籍を手にして、まさに我が子のように感じました。アジア各国に対する日本のODAをまとめたものですので、皆様も是非お手にとり頂き、ご高評賜れば幸いです。

▶ 今後の抱負も踏まえ、みなさんへメッセージを！

高校時代にロータリークラブのお世話になってインドネシアへ留学させて頂き、本当に人生が変わりました。長い人生、数年の回り道はレールを外れるどころか、むしろ何物にも代え難い経験を積むことができました。ただ、お陰で自他共に認める「変わった人」になってしまいましたが(笑)。

学校教育、吹奏楽、インドネシア、ラグビー、神輿、落語、食べ歩き&飲み歩き。どれも私から欠かすことはできません、それこそが私のアイデンティティです。毎日がつまらないと思えばつまらなくなりますが、そんな中から一つでも二つでも目的や楽しみ、喜びを見出すことが出来れば、自分を取り巻く環境への見方ががらりと変わります。

今後は健全な批判力を持ちつつ、「Think Globally, Act Locally」という国際学部理念を体現する人材を育成したいです。派手さではなくても地道に草の根レベルで活動し、楽しみながらも社会に貢献して欲しいです。

学部3年生の春、タイのシーサケットへ行き、ボールやタイ語に翻訳した日本の絵本などを寄贈しました。大規模な支援活動に比べればほんのわずかな協力だったかもしれませんが、自分も楽しみながらの活動だったことを忘れることができません。

コロナ禍で世界が暗い今こそ、自分にできることは何か。ストイックに考えるというよりは、明るい未来を想像しながら一歩一歩着実に前進することで、自分も周囲も明るくなることを信じていきたいものです。

トコロ変われば
ザ★談会

コロナの状況は？

Thailand

大宮
バンコク在住

昨年は世界の深刻な状況に反して、国内感染者0人を継続的に記録したタイ。一時はコロナ対策優等生として格付けされたのも過去の話。年初から各所でクラスターが発生し、4月のタイ旧正月連休で人の流れに拍車がかかり、バンコクを中心とした首都圏で感染者数が高止まりしています。政府方針で、7月より商業施設閉鎖や夜間外出禁止を発令していますが、その効果は薄く、現在も毎日2万人前後の新規感染者が報告されています。知り合いが感染したりと、身近なものになってきています。

インドネシアの感染者数は、2021年8月現在、400万人を超えるなど、アジアではインドに次ぐ被害を出しています。特に6月半ばから事態が急速に悪化し、死者数も11万人を超え、まさに「医療崩壊寸前の厳しい状況が続いています。政府は7月上旬から、ジャワ島・バリ島において、「緊急活動制限」というロックダウンに近い措置を発令。一部の業種を除き、基本的に在宅勤務を要請しており、ショッピングモールや公園などの施設も閉鎖されています。学校もオンライン授業が1年以上続いており、日常生活は大きな影響を受けています。一方、デリバリーサービスのアプリを駆使すれば、食事や生活必需品などをスマホ手配して即日届けてもらうこともできますし、「おこもり」生活も割と快適に過ごせるのも事実です。

China

田邊
北京在住

中国では昨年春以降、国外からの入国者に毎日陽性者が出るものの、国内二次感染はずっと抑えられてきました。たまた国内陽性者が出て、一人出たら徹底的に関係者をPCR検査し、人々に外出自粛を要請されます。その都度私たちも予定していた出張が取り止めにあったりセミナーがオンラインになったりと、緊急事態宣言が出ている国と同様不便は感じますが、それでもそのおかげで普段から自由に友人と酒を飲んだりカラオケで歌ったりということが出来る環境にあります。最近、デルタ株のちょっとしたクラスターがあり、このゼロコロナ政策が今後も有効なのか不安視する向きもあります。

チェコは冬～春の爆発的な感染状況も5月には徐々に収まり定期的な検査を前提に学校、テイクアウト以外の飲食店営業の再開、集会等の人数拡大等規制緩和が徐々にされていきました。8月現在では人口10万人当たりの感染者数は20人前後と抑えられている様子です。公共交通機関、建物の中はマスク装着義務ではありませんが一定の距離を保って野外でのマスク着用の必要はありません。旅行や子供のキャンプも再開されており人々は夏休みを楽しんでいる様子です。9月からは博物館、美術館、動物園、城の入場数も収容人数100%（現在75%）など大幅規制緩和が計画されています。

第五回のお題は、こちら！

あなたの地域のコロナワクチン接種事情

(8月20日時点)

ワクチンの種類や
接種状況は？

前述した通り、タイ国内のコロナ状況は決して悪くなかったこともあってか、予防接種への対策は遅れ気味です。タイ政府主導により積極的に手配されたのは、「シノバック社製」と「アストラゼネカ社製」のワクチンで、シノバック社製ワクチンは重症化を防げど感染予防効果については疑問視する情報もあり、アストラゼネカ社製を希望する人が多いものの、基本的には選択できないとのこと。職場単位、区役所申請、ワクチンセンターへのウォークインなど様々なチャネルで接種機会を設けており、在住外国人にも無料で提供していますが、8月時点での1回目接種の割合は25%、2回目接種の割合は7%と、まだまだ十分な割合とは言えません。在タイ日本大使館の働き掛けにより、在住日本人向けの枠組みも始まっています。

Indonesia

谷澤
ジャカルタ在住

人口2億7千万人の大國で、ワクチン接種を迅速に進めることは容易なことではありません。1人2回の接種が必要だとこの前提に立つと、現在の接種率はおよそ13%程度に留まっています。ただ、ジャカルタのような都市部では、日本よりだいぶ早い段階で大規模接種が始まった印象を持っています。別途、大手企業がワクチンを購入し、従業員に接種する枠組みもあります。中国の「シノバック社製」が主流で、英国の「アストラゼネカ社製」が2番手という感じです。前者を接種した医療従事者が多く感染・死亡し、有効性を疑問視する声が上がっているのも事実です。在住外国人への接種も一部で進んでおり、私も7月上旬にアストラゼネカ社製のワクチンを無償で接種を受けました。

Googleのデータによるとすでに18億回接種されているようですが、2回済ませた人は全人口の16%前後だそうです。すでに1年以上感染爆発が起きていないので、市民の接種願望は高いとは言えず、伝統的に東洋医学を理想としているお国柄、ワクチン接種そのものをよく感じていない人も多いようです。また、国産ワクチンとは変異型のウイルスに対する効果が疑問視されてもおり、在住邦人のなかには外国製ワクチンの接種機会を待っている人や、日本への帰国接種を検討している人もいます。

Czech

當眞
プラハ在住

チェコにおいて当該ワクチン接種を完了した人は人口の約5割となっている様。最初は高齢者や医療従事者を優先に開始され、今は一般成人、子供は12歳まで年齢が引き下げられました。今では地域によっては接種会場で余裕がある場合、事前登録、予約無しで受けられる場所も出てきているほど簡易化されています。接種ワクチン選択に関しては接種場所を選べば希望のワクチンが接種できるよう。チェコの公的健康保険加入者は無料接種、それ以外の人は4千円ほどの負担で接種の様。使用されているワクチンは主にファイザー、モデルナ、アストラゼネカ、J&J（順不同）です。

ワクチン接種に対する
市民の反応は？

昨今の感染者の9割近くがデルタ株との情報もあり、変異種にも効果が認められるというモデルナ社製、ファイザー社製を求める声も多い中、一般市民が接種の機会を得るにはまだまだ時間がかかりそうです。バンコクでは予防接種が比較的進んでいるようで、私も家族も1回目を接種しました。1回目の接種率もまだまだ低い中、2回目割り当てられるのか、ヒヤヒヤしています。裏側では、コロナ対策も含め現政権への不満が国民の間で鬱積しており、連日デモ隊と治安部隊の衝突があり、穏やかではありません。一方、美味しいお店への注文を事前に受け、注文代行サービスなどで小銭を稼ぐ人も増え、タイ人の商売魂と、ラクして美味しいものを食べたい人々のWinWin関係を実感する日々でもあります。

基本的には、多くの市民がワクチン接種を積極的に受け入れているのではないかと思います。医療従事者はもちろんですが、配車サービスやタクシーの運転手は優先的に接種を受け、「ワクチン接種済み」というステッカーが「安心」を強調するために車内に貼られています。一方、一部市民の間では、ワクチンを打てば感染しないという誤解が広がっているうえ、マスクを着用していない人々も多く見かけます。こうした気の緩みは、現在の厳しい感染状況を招いた要因の一つになっているのではないかと思います。なお、急進派イスラム教徒の中には、主流の中国製ワクチンがイスラム法に照らして「ハラール(合法)」なのかどうか、という議論も実はくすぶっているところがあります。

現在起きているデルタ株の拡散では、2回のワクチン接種をすり抜けて感染した例も発生しています。国産ワクチンの効果について専門家は、ワクチンは血液中に抗体を作るので呼吸器粘膜での感染は防げないこともあるが、血液中にウイルスが侵入した際には有効で、重症化予防には効果があると言います。左記のとおりワクチンをよく思わない人も多いですが、国の防疫体制そのものに対する評価はみな高く、その面で現在の政策は信頼されています。個人的には今後の冬の五輪開催がちょっと心配です。

私の周りではほとんどの方（チェコ人、日本人、その他外国人）が接種済みが多いという印象ですが、8月15日にコロナに対する規制、ワクチン接種（特に子供）に対する大規模デモが行われましたので、まだまだ疑問が解けない方が多くいることを感じました。去年のコロナ発症時の国の対応には評価が高かったものの、2年弱もすると人々もそれなりに情報を集め、自ら分析し真実を追求しているようにも感じます。同時にコロナに対してヒステリックに反応する人も減り、今は状況が収まっているものの、どうせ次のパンデミックもあるさ、と自由な夏を楽しみ、そして次を見据える冷静（諦め？）な考えが普段の会話より垣間見れます。



Instagram映え!?

アジア取材雑誌
第 8 回

コロナ禍“バティック”業界の危機？

ご存知の方も多いかも知れませんが、インドネシアの伝統衣装といえば、ご覧の“バティック”です。主にジャワ島で作られている“ろうけつ染め”の布地を指しますが、その模様は実に様々で、数千種類はあると言われています。色合いや模様の複雑さによっては、完成まで1年以上かかるものもあり、ユネスコの無形文化遺産にも登録されるなど、インドネシアが世界に誇る伝統工芸なのですが...。いま長引くコロナ禍のせいで、バティックの着用機会が減少し、業界は青息吐息の状態に。零細の工房の多くは休業状態に陥り、職人の4人に3人が失職中だといいます。「かつて経験したことのない危機です。このままでは、受け継がれてきた伝統の技が失われかねません(バティック職人協会会長)」と嘆きの声が聞こえてきます。流行りのライブコマースでバティックの布地を売ってみたり、バティック柄のマスクを製作してみたりと、様々な模索が試みられていますが...。なかなか先行きが見えない状況が続いています。これは着て支援するしかない! ということで布地を購入しましたが、この柄、日本では異常に目立つこと、うけあいです。秋口以降、東京駅付近でこんな柄を見たら、お声がけ下さい。私です。###

(谷澤壮一郎/インドネシア在住)

皆様こんにちは。TVディレクターの谷澤です。コロナ禍の影響で、日本とインドネシアの間だけを行き来する生活が続いております。この異常事態、一体いつまで続くのでしょうか...



ア
リ
た
か
る

マ
ン
ゴ
ス
チ
ン
ほ
ど

超
美
味
な
り

駒
形
麻
朋
実
タイ・バンコクにて

と
も
に
感
じ
る
東
南
ア
ジ
ア

第
八
回

東南アジアへの想いを共に発信していく仲間(国際学部・院同窓生)を募集しています!

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていききたい想いを胸に秘めるそのアナタ! 私たちの仲間になりませんか? 思い立ったら吉日! ぜひ事務局兼ニュースレター編集係 大畑 (miyukiohata@gmail.com)までご連絡ください。

数多くの同窓生からの声をお待ちしています!

現メンバー (15名) ▶大畑美優紀 95・マリー/藤田研究室▶田邊知成 96・小池研究室▶ROMANOV(當眞) 里絵 96・佐々木(史)研究室▶栗林(泊) 祥子 96・梅木研究室▶平田 勝博 97・友松研究室▶本間 みずほ 97・田巻研究室▶原理恵 98・藤田研究室▶谷澤 壮一郎 02・石浜研究室▶大宮 勇樹 06・マリー研究室▶知念(高田) 知佳00・田巻研究室▶諸頭(岩山) 晴奈05・阪本研究室▶小沼 洋子 97・藤田研究室▶藤井満春 00・友松研究室▶佐々木哲夫 99・藤田/中村(祐)研究室▶駒形麻朋実17・田巻研究室 (※数字は入学年度)